

令和 6 年度第 1 回小田原市卸売市場審議会 会議録

日 時：令和 6 年 6 月 3 日（月）午後 1 時 30 分から午後 2 時 45 分

場 所：小田原市役所本庁舎 3 階 301 会議室

出席者：別紙名簿のとおり

事務局：武井経済部長、高橋経済部副部長

（農 政 課）吉澤課長、橋本副課長、菅原係長

（水産海浜課）内田課長、内田係長、船岡係長、一戸主事

事務局である水産海浜課内田課長の進行により、令和 6 年度第 1 回小田原市卸売市場審議会に先立ち、小田原市卸売市場審議会委員委嘱式を執り行った。委嘱式では小田原市長より各委員へ委嘱状を交付した。交付終了後、小田原市長より委員へ挨拶を申し上げ、退室とともに、第 1 回小田原市卸売市場審議会を開会した。

引き続き事務局である内田課長の進行によりオブザーバー及び事務局職員の紹介、配布資料の確認を行った。確認後、会長が選出されるまでの間、議事進行役を武井経済部長が務め、議題の審議が進められた。

【議題】

（１）会議の公開・非公開について

初めに、議題の「（１）会議の公開・非公開について」審議が行われ、非公開とすべき事項がない旨確認が行われた。その結果本審議会が公開と決定され、武井経済部長より傍聴者の確認を求められ、傍聴者がいないことが確認された。

（２）会長及び副会長の選任について

続いて、議題の「（２）会長及び副会長の選任について」、審議会委員から事務局に対し、会長、副会長の事務局（案）の提示が求められ、事務局から会長を中川委員、副会長を竹本委員とする案が提示された。

異議なしの声により事務局から提示された案が承認され、中川会長、竹本副会長が決定した。

中川会長のあいさつ後、武井部長から中川会長に議事進行役が移り、審議が再開された。

（３）本市水産卸売市場の検討状況について

続いて、議題の「（３）本市水産卸売市場の検討状況について」、事務局から説明の後、中川会長の進行の下、各委員から次のとおり質疑があった。

(川口委員)

52 ヶ月、約 4 年半の工事期間を要するとの説明があったが、いつ頃の着工を予定しているのか。

(内田課長)

これから基本構想、計画、設計と検討を進めていく中で時期は明確となるが、早くとも 4，5 年後となる。

(秋山委員)

水産市場の再整備にそれだけの期間を要するのであれば、能登半島地震などもあったので、防災の観点からも、水産市場の次と言うことではなく、青果市場も同時に検討を進めていただきたい。

(中川会長)

事業スケジュールは、関係者にとって非常に重要な要素であるため、各施設の検討状況の共有をお願いしたい。

(秋山委員)

資料 4 で説明のあった青果市場の既存施設、約 2 万平米はどこまでの範囲が含まれているのか。

(内田課長)

高架橋から東側のみで、グラウンド側は含んでいない。

(中川会長)

事務局からの説明で 3 つの整理事項が示されたが、その中にも一部閉鎖化型への転換検討とあった。

まず、確認したいのは、それは市場関係者の共通理解なのかということ。

(高橋委員)

生産者の立場からは、作業性の観点から、一部閉鎖型の市場が良いと考えている。

(内田課長)

視察に参加した関係者も含めて、その方向性で一致している。

(中川会長)

他市場でも同様の議論があり、再整備に向けた初めの検討事項となる。

加工所などを含む施設の場合は完全閉鎖とするなど厳しい条件を満たす必要があるが、陸送品や地の魚などを取引して配送するだけの、4～5 時間だけ稼働するスルー型の施設で良いのであれば、一部閉鎖型の施設でも良いのではないかと考える。

(武井部長)

社会経済情勢などを踏まえて施設の整備方針等については検討していく。

(米山委員)

これまでは行政が主体となり再整備の検討を進めてきたため、慎重になり過ぎ、時間ばかりが掛かっている。

資料5で既存売場面積 3,500 m²と同等規模とすると説明があったが、卸売人として改めて検討している中では、例えばマグロ低温倉庫や、売場内で貝など加工している場所については、現在では保健所から許可を得られないこともあり整理が必要と考えている。

そのような点も含め、事業者として主体的に計画検討には関わって行きたい。

(中川会長)

スピード感をもって、進めていくことが大事との意見があったが、他に意見はあるか。

(瀬戸委員)

事業費 60 億円、八幡浜市は 17 億円とあり、使用材料を安価なものにするなど事業費を圧縮したと説明にあったが、大きな開きの要因は何か。

(内田課長)

豊洲を基準とした高度衛生管理型の市場を目指し、完全閉鎖型で空調設備などを見込んだことが要因であるが、基本構想の中で規模や機能等を見直して圧縮していく。

(橋本委員)

消費者としては、どこのお店でどんな魚が購入できるといった情報が予め分かるとより魚が買いやすくなる。

AI 技術等の新技術を用いれば、明日はどんな魚が獲れるのかといった予測ができるのではないか。

再整備は将来を見据えて行うと思うが、ハード整備だけでなく、新技術も含めたソフト面の整備も検討頂きたい。

(高橋委員)

生産者としては、「いつどんな魚がどれだけ獲れるのか」は、実際に水揚げしてみないと分からないため、もどかしい気持ちもある。

昔は、時期毎に水揚げされる魚種がある程度は予測できていたが、近年では先日のブリの豊漁もそうであったが、季節外れの好漁など、より一層予測が困難な状況にある。AI 等を活用しても難しいのではないか。

(内田課長)

どのような魚が水揚げされたのかといった情報は、水揚げ情報をお知らせする黒板を撮影して、消費者の皆さんへ SNS 等で発信している。

(関委員)

水産市場再整備に約 10 年を要するのであれば、青果市場の再整備はその後ということになるが、青果市場も老朽化しており、その下で働く我々は、非常に不安である。

青果市場の再整備は構造も単純であるため、水産市場ほどの事業費が掛からないと考えている。同時並行で再整備が難しいということであれば、耐震調査をするなど、老朽化した市場の安全の確保をお願いしたい

(武井部長)

水産市場が整備されるまで何も対処しないということではない。
老朽化により対応が必要となる箇所の改修については、再整備とは切り離して進めていく。

(中川会長)

それでは、「本市水産卸売市場の検討状況について」、今後の方針も含めて事務局説明のとおり進めていくことで良いか。

(委員)

異議なし。

(４) その他

続いて、議題の「(４) その他について」、会長からの報告の後、質疑・意見等の確認が行われた。

(川口委員)

青果市場のトイレは大部分が和式トイレとなっており、生産者、買受人ともに高齢ということもあるが、洋式化の要望が多い。

今後、洋式化が進められるよう要望させていただく。

意見等が尽きたことから会議進行役を、中川会長から再び事務局に戻し、審議会としての報告については会議終了後、事務局から小田原市長あてに行う旨の連絡があり、令和 6 年度第 1 回小田原市卸売市場審議会を終了した。

以上